

平成29年度実施（28年度採択）中央区協働提案事業評価結果報告

この報告は、中央区協働事業提案及び協働事業実施要綱第13条第2項に基づき、中央区協働推進会議から中央区長に報告するものである。

1 評価の対象とした事業

(1) 子育てがラクになるワークショップ事業

協働団体：認定特定非営利活動法人 エンパワメントかながわ
区担当部局：福祉保健部子ども家庭支援センター

(2) 校庭開放を活用した安心できる子どもの遊び場づくり・体力づくり

協働団体：中央区地域スポーツクラブ大江戸月島
区担当部局：教育委員会事務局学校施設課

2 評価結果

別紙「中央区協働提案事業評価結果報告書」のとおり

3 評価経過

平成30年2月19日 中央区協働推進会議による実施報告会

平成30年2月26日 中央区協働推進会議による事業評価

4 評価方法

協働団体及び区担当部局から提出された実施報告書及び実施報告会を踏まえ、下記評価基準に基づき、全委員協議のうえ共通認識のもと評価した。

(評価基準)

(1) 事業の成果に関する評価

事業目的の達成度、事業実施における効率性・効果、受益者の満足度

(2) 協働の取り組みに関する評価

団体及び区の役割分担、相互理解・パートナーシップ

(3) 総合評価

事業継続の必要性

中央区協働提案事業評価結果報告書 <中央区協働推進会議>

事業名	子育てがラクになるワークショップ事業		
実施団体	認定特定非営利活動法人エンパワメントかながわ		
担当課	福祉保健部子ども家庭支援センター		
目的	ワークショップへの参加を通じ、子どもの話をしたり自分の気持ちを話すことにより独りで抱えなくてもいいこと、悩んでいるのは自分ひとりではないことを体験する。		
事業の概要	0歳から3歳までの子育て中の保護者を対象に1回当たり20名定員の「子育てがラクになるワークショップ」を、子育て関連施設で3回開催する。		
実績	児童館職員向け事前説明会 ワークショップ(3ヶ所・全7回)	参加者 19名 受講者計 103名	事業費 646,000円
評価	A:高く評価できる B:評価できる C:どちらかという評価できる D:あまり評価できない		
1 事業の成果に関する評価		推進会議評価	
事業の目的は達成できたか		A	
<p>子育て世代がさらに気軽に楽しく子育てを行えるように気持ちや行動の転換を図ることを目的とするセミナーは、現代の子育て世代のニーズに対応しており好評であったと判断できる。また、ワークショップを通して、育児などに伴うストレスの緩和へとつながったことは大きな成果であり、孤立しがちな子育て中の親たちが子どもと離れた空間で、同じような境遇にある者同士がつながる機会は子育てに対する肯定的な心理効果をもたらすとともに、子育てについての具体的な知識を得る機会にもなっている。</p>			
単独で実施するより効果的・効率的な事業の実施ができたか		A	
<p>他地区で展開された実績を有し、双発的なコミュニケーションを主体としたプログラムは協働でその内容である。また広報と施設利用に関しては行政の調整が機能しており、協働の成果が確認できる。児童館での開催のコーディネートや職員の意識までも高められる事業につながったことは、協働による実施の成果であると考えられる。行政(児童館)職員がこのワークショップから得るものも多く、親子との関わりや声掛けに変化が出てきたという成果は大きい。</p>			
受益者の満足度はどうであったか		A	
<p>アンケート結果をさらに検証する必要があるが、満足度は高かったと判断できる。報告会ではプログラムが終了した後も会場を後にしない参加者が多かったというエピソードが示されていたが、このような場を求めるニーズが確実にあると推察できる。参加型学習スタイルで参加者同士が互いに交流できるよう工夫を凝らしている。</p>			

2 協働の取り組みに関する評価	推進会議評価	
団体と区との役割分担はうまくできたか	A	
<p>区と実施団体との連絡調整は、担当課としても事業内容の把握に努め、関係は良好に維持されていると判断できる。特に、児童館での開催のコーディネートに関しては、区の役割が大きく、チラシ配布や職員への説明の役割を適切に担っていた。その結果によって、職員研修まで実施し、職員の意識までも高められる事業につながったことは、協働による実施の成果であると考えられる。今後さらに区側のプログラム内容の改善に対しての意見交換が行なわれることが期待できる。</p>		
協働の推進につながったか (相互理解・パートナーシップは深まったか)	A	
<p>子育て世代への内面にわたるサポートができたことは本事業ならではの成果であり、システムの推進と内容の展開という点で明確な協働の意識とプロセスが共有されたと考えられる。「地域のつながりを持ちたい」というニーズを永続的に満たすためにも、交流の輪をさらに広め、地域の子育てネットワークへと拡大させていくなど、地域コミュニティの強化へとつながっていくことを期待したい。</p>		
総合評価コメント		
<p>継続すべきである</p>	<p>一部修正を要するが継続すべきである</p>	<p>再検討を要する</p>
<p>本事業の受益者における高い満足度は、このような事業の必要性を示している。内容的な充実をさらに検討して、親世代はもとより祖父母世代や父親などを対象とした子育ての家族ぐるみのサポートの可能性を含めて本事業に期待される場所は大きい。参加者の満足度の高さや子育てに関わる職員の意識が高められた結果から、区の子育てが支えられる有益な事業であると考えられる。今後も、このワークショップに参加した保護者がいずれ自発的な動きへ導くマンパワーへと発展させていく可能性もあると考えられる。今後は、子どもを育てることを女性にだけ任せるのではなく、男性にも参加してもらうことで、より一層充実した子育てにすることが望ましく、開催曜日の工夫に加え、この事業を子育て支援全体の中でどのようなニーズ層へのアプローチとして位置づけるのかを明確にして、さらに様々な工夫をして欲しい。</p>		

中央区協働提案事業評価結果報告書 <中央区協働推進会議>

事業名	校庭開放を活用した安心できる子どもの遊び場づくり・体力づくり		
実施団体	中央区地域スポーツクラブ大江戸月島		
担当課	教育委員会事務局学校施設課		
目的	小学校の校庭開放を活用し、キャッチボール、ボール蹴り他、公園などで活動が難しい遊びや運動を、スポーツ指導者が直接指導することで、遊び場の充実と体力増進を図る。		
事業の概要	ボールの投げ方、蹴り方など公園で実施が難しい教室の開催。		
実績	日曜 13:30～15:30（年12回のうち10回実施） 幼児 143名 小学生198名 保護者234名参加	事業費	983,000円
評価	A:高く評価できる B:評価できる C:どちらかという評価できる D:あまり評価できない		
1 事業の成果に関する評価		推進会議評価	
事業の目的は達成できたか		B	
<p>子どもの運動遊びを親世代とともに提供する本事業の目的はユニークであり、所期の目的は達成できたと判断する。一方、子どもたちの遊ぶ主体の育みというところまでには至らなかった面はあるが、校庭開放を有効に活用するため、スポーツ指導者やPTAなど地域との連携をとりながら、この事業を実施できたことは意義のある事業であると思う。今後の課題としては、校庭開放に対するプログラム提供を全区的に展開できるかどうかであり、それに向けたプログラムの標準化が期待される。</p>			
単独で実施するより効果的・効率的な事業の実施ができたか		A	
<p>校庭開放という事業の設定条件上、区の関与は不可欠であり、その面で単独では実施し得なかった事業である。学校学区を限定しての実施である以上やむを得ない点もあるが、行政のさらに積極的な関与（広報等）について、さらなる努力の余地はあったと考えられる。同種の活動は、学校施設を使用することから、場所の確保や企画の周知など、さらなる学校及び行政の協力は不可欠である。</p>			
受益者の満足度はどうであったか		A	
<p>参加者の満足度は高かったことはアンケート等に表れている。課題は、参加者の横のつながり（参加者同士の集団遊びなど）に展開できるかどうかである。各回ごとにテーマが設定され、関心のあるプログラムに参加できることが高い満足度につながるものと思われる。自主的な集団遊びが衰退している現代において、仲間づくりを目指した集団遊びを中心としたプログラム開発を望みたい。</p>			

2 協働の取り組みに関する評価	推進会議評価	
団体と区との役割分担はうまくできたか	A	
<p>事業の性格上、役割分担は一定の程度で達成されていた。場や状況の確保・設定などを行政が担い、運営を団体が実施するという互いの役割がこれまでの実績も踏まえて連携が取れていると考える。欲をいえば、いまだ行政側のこの事業に対する主体的な関わりや組織化への意識を望みたい。具体的には行政として同種の活動の実施場所を増やす努力も望みたい。</p>		
協働の推進につながったか (相互理解・パートナーシップは深まったか)	A	
<p>校庭開放という事業の性格上、行政の支援がなければ成り立たない事業である。内容的に行政だけでは十分に深められない校庭開放のプログラム化を提示できたという点で協働の推進につながったと判断できる。今回、校庭開放に関する課題を共有したことにより、どのようにその場づくりをする必要があるのかを検討しながら進めていたことは大きな評価である。今後は、こうした活動を行政が実施団体を含めて育成・支援していく視点を持ってほしい。</p>		
総合評価コメント		
継続すべきである	一部修正を要するが継続すべきである	再検討を要する
<p>事業の効果は明らかである。遊び場の減少が懸念される本区において、本事業が果たす役割は大きい。提供される遊びの内容は今後検討すべきことはあるものの、事業全体としては健康づくり・体力づくりを中心とした子どもの育ちを支える上で、有益な事業内容であると考えられる。さらに、子どもの主体的な活動を大切に、大人がどのように遊びの楽しさを与え、子どもたち自身が遊びを広げるものへと発展させていくのか、実施する団体内での検討を重ねて内容を向上させていってほしい。初年度試行してきたことをもとに団体・行政がともに振り返りを行い、活動内容(プログラム)のバリエーションをさらに増やして試行していくことは必要である。安全面が確保されている校庭開放を有効活用することは極めて有意義なことである。今後は、保護者だけでなく、PTAやおやじの会、高齢者ボランティアなどの協力も得て、遊びにとどまらず将来の人間関係づくりに備え、工夫して子供同士で遊ばせる機会、場所を与える事業として、今後の事業運営に大いに期待したい。</p>		